

## バイオリン演奏を通して、「聞く力、感じる力、表現する力」を高める

言語 コミュニケーション 音楽 キャリア 総合

講師 久米 晶子氏 現役バイオリニスト、バイオリン講師

バイオリンの生演奏を聴き、

- ① 演奏での息づかいや、聞き手に見えないコミュニケーションをとりながら演奏している姿を感じる。
- ② 同じ曲を、テンポ、間合い、表現の仕方を変えることで聴こえ方が変わることを感じる。
- ③ 演奏を聴き、イメージしたものを言語化し、発表する。
- ④ 作曲者がどのような状態で作曲したか、時代背景など曲の特徴を学ぶ。



## 【児童の感想文から】

- ・音の重なりがすごくきれいでした。演奏中に体でも表現していてすごかったです。
- ・体を大きくゆらした時と小さくゆらした時の音の強弱が違ってることが素敵だなと思いました。
- ・演奏を聞いてみてとても音が大きくて頭に残ります。一緒に「涙そうそう」を演奏したときうれしかったです。
- ・バイオリンはすごく音が教室全体にひびいてすごくきれいでした。バイオリンの先の方に首をのせるところがなんであるのかと思ってなぜだろうと考えました。
- ・バイオリンはすごく穏やかなイメージの楽器ですが、激しい音も低い音も高い音も出せるなんて、驚きました。
- ・音のなりかたなどはまったく知らなくて、ギターや三味線のように左手の指で弦をおさえて音を変えるときは、いくつくらいの音があるのかが気になりました。
- ・「ユーモレスク」を聞いて強弱の違いや音の大きさ小ささなどありましたが、一番印象深いのは、左手でビブラートをしている時の音の出し方でした。最初分かりませんでしたが、改めて聞いて分かりました。
- ・とても清らかな音色だったので心がワクワクしました。音が二重みたいになっている所がとてもきれいでした。バイオリンを作るのに 55 個のパーツが必要ということに驚きました。
- ・こんな機会にこんな近くでバイオリンの演奏を聞けて良かった、曲を作った人の名前やどこで生まれて何歳の時書いた曲など教えてくれてありがとうございました。

## 【担当の先生から】

- ・とても興味、関心をもって授業に臨み、集中を切らすことなく取り組んでいました。本学年の児童の課題である「感じる力」「表現する力」を伸ばすとても良いきっかけとなりました。